

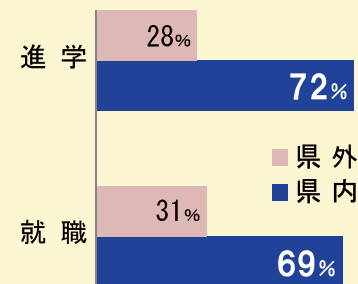
進路の現状と 求められる人物像

三学年主任 向井若樹

今年度の進路志望動向

左のグラフは、今年度の三年生の進路志望状況です。新型コロナウイルス感染症の影響から、就職・進学ともに県内への進路志望者が多くなっていることがわかります。県内の他の高校でも同様な傾向になるものと考えられ、県内への就職・進学ともに例年以上にしっかりとした準備が必要になりそうです。

3年生進路志望状況



県内志望者は昨年度に比べて、進学・就職ともに10ポイント以上増加

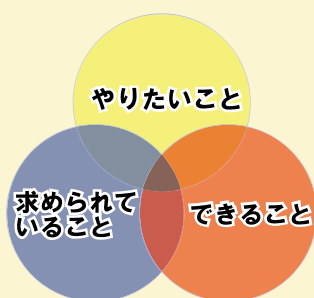
進路決定に向けて

この状況を踏まえて、五月二十五日に三学年合同LHRを行いました。その中で、「やりたいこと」「できること」「求められること」の三つについて考える機会を設け、自己理解を

深め社会に向けて高く広くアンテナを張ることの大切さを学ぶとともに、進路決定まで自ら能動的に考え判断し、行動していくことを確認しました。

キャリアデザイン

自己理解
自分を知るための3つの輪



一・二年生に期待すること

ある調査によると、働いている人を「一人前」と企業が判断するレベルは「自分で段取りができることに加え、トラブルが発生した際も一人で対応できる」ことだそうです。このレベルを目指すには高校時代に何をすればいいのかを、教科学習、実習、部活動、学校行事を通して考えてください。受け身の姿勢では成長はありません。

国家資格取得を目指して 第一回 危険物取扱者試験

今年度第一回目の危険物取扱者試験が六月七日に加治木工業高校で実施され、本校からは七十二名の生徒が受験

しました。合格発表は六月末。多くの生徒が休校期間中の自宅学習や朝補習などで力をつけてきましたので、ぜひ合格に結びついてほしいと思います。

ものづくり高校生 熱く技磨く

鹿児島県の工業高校生が競う「第九回高校生ものづくりコンテスト 鹿児島県大会」が七月十八日、鹿児島工業高校と鹿児島情報高校で開催されました。メイン会場となる鹿児島工業高校では、旋盤作業部門、電気工事部門、木材加工部門など、七部門の競技が行われ、本校からは「旋盤作業部門」と「家具・工芸部門」にそれぞれ各科の代表生徒が出場します。代表生徒たちは、放課後や休日等を利用しながら、日頃の実習で身に付けた専門的技術に磨きをかけています。

大会まで残り約一カ月。代表生徒たちの健闘に期待します。



大会課題の練習に熱心に取り組む「ものづくり部（木工班）」の生徒たち

ものづくりへの思い 高校生溶接競技大会に挑戦

「第十三回高校生溶接競技大会 鹿児島県大会」が七月二十二日、県工業技術センター（霧島市）で行われます。本校からは電子機械科三年生の平嶺さんが出場します。ものづくり部の機械班に所属する平嶺さんは、「二年生の機械実習で溶接の楽しさを知った。大会の課題は、実習で取り組んだ内容よりもかなり難易度が高いが、残り一カ月の特訓で腕を磨き、上位入賞を目指したい」と意気込んでいます。

平嶺さんは、七月の国家技能検定三級（機械加工（普通旋盤作業））の受験に向けて、日々旋盤作業の練習に取り組んでいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で検定試験が中止となり、悔しい思いをしたそうです。気持ちを切り替えて、溶接競技大会に挑む平嶺さん。平嶺さんの活躍に期待します。



アーク溶接の技能向上に励む平嶺さん